

ポイント1 駐車台数は500台を確保

現在の本庁舎の駐車場は、平常時で250台分、年度始めなど最も混雑する時期でも、350台分のスペースで間に合っています。500台というのは、十分に余裕を見た数字です。

新しい市役所庁舎に併設して、現在のセントラルパークの敷地も含めた厚生会館地区に、300台分の立体駐車場を作ります。さらに再開発事業などで200台分を確保し、合計500台分の駐車場を整備します。

現在 **350台** → 移転後 **500台**

ポイント2 市役所利用者の駐車料金は無料

自動車に来て、市役所を利用される人には、無料券を発行するなど、十分に配慮します。

どれくらいの時間を無料とするか。長時間駐車する場合はどうするか。他市の事例やノウハウを参考に、市民の皆さんのアイデアやご意見を伺いながら、検討を進めます。

ポイント3 ゆったりスペースでらくらく駐車

駐車しやすい自走式の立体駐車場です

機械式の駐車場によくありがちな、鉄板の床の「溝」。幅ピッタリにタイヤを収めなければならないため、運転が上手な人でも、タイヤの側面やホイールをこすったり、ちゃんと入るまで何度も切り返しをしなければならなかったり。「アレは苦手」という声が多く聞かれます。

新たに整備する駐車場は、そうした機械式の駐車場ではなく、自分で運転して、空いているスペースに止める、自走式の立体駐車場とします。

ゆったりスペースで利用者にやさしく

一台一台の駐車スペースは幅を広くとり、ラインも二重に引いて、止めやすくします。駐車場内の通路も余裕を持たせ、運転に不慣れな人や、車庫入れが苦手な人でも、らくらく駐車できるような設計にします。

併せて、高齢者や身障者の人にも配慮し、段差をなくし、通路の幅を広げたバリアフリーの駐車スペースも十分に確保します。



▲駐車スペースのイメージ。U字形の二重線で幅広く

雨や雪の日もカサなしで大丈夫

現在の本庁舎と駐車場の間は、雨や雪の日にはカサが欠かせません。新たに作る立体駐車場と市庁舎との間は、屋根の付いた連絡通路で結ぶ予定です。荒天でもカサなしで大丈夫です。



▲連絡通路のイメージ

市役所の中心市街地移転で… どうなる？来庁者駐車場

交通弱者への配慮は、市役所移転の大きな理念のひとつ。しかし、車を利用する人のこともしっかり考えています。

ニミニ ス！ 構造改革会議が意見書を提出

中心市街地構造改革会議（座長・田村巖 長岡商工会議所会頭）は2月5日、行政機能再配置に関する意見書を市長に提出しました。これは、市役所が中心市街地に移転する際の庁舎の配置について、まちづくりの観点から同会議が検討を重ね、意見をまとめたものです。

意見書の要点は、①市役所庁舎は、市民と議会、市民と行政の交流の場・協働の場に、②市役所庁舎は、厚生会館地区、大手通中央地区再開発事業地区、表町地区再開発事業予定地区に分散して配置を、③駐車場の整備に加えて効果的な交通政策の検討を、の3点です。

「市民が便利になるように考え、まちづくりに最も望ましい形を提案しました」と田村座長。森市長は、「今の時代の新しい考え方に即した提案をいただきました。今後、十分に時間をかけて検討していきます」と応えました。



厚生会館地区で整備の検討が進む、平成の公会堂（多目的アリーナ）と屋根付き広場、市庁舎が一体となった「シティホール」。この「シティホール」でどんなことができるか、どんなことがしたいか、市民からアイデアを出してもらおうと二月十七日、ワークショップが開かれました。

関係者など二十人。「屋根付き広場をオープンカフェにして、気軽に食事を楽しめる空間を」「オープンカフェには、音楽活動をしている市民が出演して、音楽も一緒に楽しめる」といい、「市内各地域の特産品の販売ブースを設けたら」など、楽しい意見が交わされました。中には「屋根付き広場で結婚式を挙げて、大手通りを歩いている人たちからも祝福してもらったら」というユニーク



なアイデアも。

市では、今後も市民からのアイデアを募り、厚生会館地区整備の基本設計に反映していきます。

まちなか活性課
☎39・2807

集い、語らい、楽しむ「市民の広場」に 面白アイデアが続々

ながおか100年

市制100周年記念シリーズ⑩ 最終回
写真で見る

桐島小学校入学式 (和島地域)

昭和四十六年の入学式の様子です。真新しい制服に身を包んだ新一年生が、体育館に敷かれたござの上に緊張気味に正座しています。お母さんたちの装いの多くが羽織姿で、当時の風俗がうかがえます。



この年の十一月、桐島小学校では、校庭の拡張工事に着手します。翌年二月には水道を整備するなど、学校環境の改善が進められました。しかし、このころから人口流出と少子化が進み、地域にもう一つある島田小学校とともに、児童数は減少していきます。

旧和島村では、子どもたちには「人を思いやる心」「お年寄りを敬う心」「人を愛する心」を、高齢者には「生きる喜びの醸成」を合言葉に、世代を超えて共に育みあう「共育」の精神を大切にしてきました。平成二十一年には、和島地域の二つの小学校は統合により百年以上の歴史に幕を降ろす予定です。しかし、この「共育」の精神は、統合後の新しい小学校の子どもたちにもしっかりと受け継がれていくことでしょう。

▲駐車場について…交通政策課☎39・2267、FAX39・2270、koutuu@city.nagaoka.lg.jp
市役所の中心市街地移転全般について…行政管理課☎39・2208、FAX39・2272
gyoukan@city.nagaoka.lg.jp